

親の養育態度と子どもの自尊感情及び社会的比較との関連について

○真鍋宙舞¹・井浴野雅子²・森永康子²

(¹広島文教大学大学院人間科学研究科 ²広島文教大学)

問題と目的

過去の研究から、子ども時代の親の養育態度と大学生の自尊感情の関連(尾形・増南, 2021; 山下他, 2010), 大学生の自尊感情と社会的比較志向性の関連(外山, 2002)が報告されている。しかし、親の養育態度と自尊感情と社会的比較志向性の3つの要因の間の関連性は、明らかにされていない。そのため本研究では、この3つの要因の関係性モデルの検討を目的とする。

方法

参加者 A 大学の学生 85 名(年齢 $M=19.5$ 歳, $SD=0.92$)。

質問項目 ①**自尊感情尺度**: Social and Basic Self-esteem Test (近藤, 2013), 12 項目, 4 件法 (項目例: 社会的自尊感情「運動は得意な方だと思います」 $\alpha=.63$, 基本的自尊感情「生まれてきてよかったと思います」 $\alpha=.70$)。その他回答の妥当性を測定する 6 項目(項目例「嘘をつくことはいけないことだと思います」)。②**社会的比較志向性尺度**(外山, 2002): 10 項目, 5 件法 (項目例: 能力比較「他の人のやり方と比べて自分のやり方はどうであるか、いつも気にしている」 $\alpha=.81$, 意見比較「何かについてもっと知りたいと思うとき、それについて、他の人が何を考えているのかを知ろうとする」 $\alpha=.49$)。③**養育態度尺度**: CRPBI (Children's Report on Parent Behavior Inventory) -30 (内海, 2012), 30 項目 \times 2(両親)の合計 60 項目, 4 件法。この尺度は養育態度を双極の連続体として捉え以下の3因子で構成される。受容—拒否(項目例「私にたびたび微笑みかける」 $\alpha>.91$; 父母別に算出), 確たる統制—緩い統制(項目例「言いつけ通りにしなさい」と言い張る」 $\alpha>.74$), 心理的統制—心理的自律(項目例「私が親と違った物の見方をすると愛想が悪くなる」 $\alpha=.81$)。

結果と考察

各因子の基本的統計量を Table 1 に示した。次に、Figure 1 のようなモデルを共分散構造分析により検討した。母親の養育態度の確たる統制は基本的自尊感情と負の関連がみられ、基本的自尊感

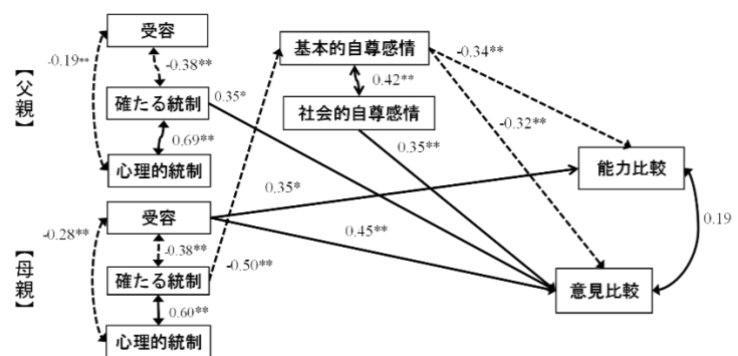
情からは能力比較と意見比較に負の関連がみられた。母親のルールや規範等の行動を統制する養育態度は自尊感情を低めることは、小林(2011)における自己否定感を高めることと類似した結果が得られている。そして、母親の行動統制的な養育態度は基本的自尊感情を媒介し、社会的比較に関連していることが示唆された。また、母親の養育態度のうち受容は、能力比較と意見比較の両方と直接的な正の関連を示した。その一方、父親の養育態度の確たる統制が、意見比較と正の関連をしていた。以上のことから、父親の養育態度よりも母親の養育態度の方が子どもの自尊感情及び社会的比較との関連が大きいことが示唆された。

Table 1 各因子の相関分析

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|--------------|---------|----------|--------|---------|----------|----------|---------|----------|---------|------|
| 1.社会的自尊感情 | 1.00 | | | | | | | | | |
| 2.基本的自尊感情 | 0.39 ** | 1.00 | | | | | | | | |
| 3.能力 | -0.28 * | -0.46 ** | 1.00 | | | | | | | |
| 4.意見 | 0.19 + | -0.23 * | 0.28 * | 1.00 | | | | | | |
| 5.受容(父親) | -0.06 | -0.09 | 0.13 | 0.35 ** | 1.00 | | | | | |
| 6.確たる統制(父親) | 0.09 | -0.08 | -0.01 | 0.03 | -0.38 ** | 1.00 | | | | |
| 7.心理的統制(父親) | 0.18 | -0.16 | 0.07 | 0.00 | -0.19 + | 0.69 ** | 1.00 | | | |
| 8.受容(母親) | -0.08 | -0.12 | 0.23 * | 0.43 ** | 0.79 ** | -0.35 ** | -0.21 + | 1.00 | | |
| 9.確たる統制(母親) | 0.03 | -0.23 * | 0.12 | 0.02 | -0.32 ** | 0.69 ** | 0.49 ** | -0.38 ** | 1.00 | |
| 10.心理的統制(母親) | 0.21 + | -0.14 | 0.09 | 0.01 | -0.19 + | 0.46 ** | 0.78 ** | -0.28 * | 0.60 ** | 1.00 |
| 平均 | 2.17 | 2.45 | 3.56 | 3.89 | 2.90 | 2.04 | 1.59 | 3.19 | 2.08 | 1.66 |
| 標準偏差 | 0.50 | 0.48 | 0.87 | 0.71 | 0.73 | 0.46 | 0.49 | 0.71 | 0.46 | 0.52 |

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Figure 1 3要因の関係性モデルのパス解析の結果



CFI=1.00, RMSEA=.000 SRMR=.000, ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$.

注) 有意の結果のみを示した。→は正の係数, →は負の係数を表す。受容=受容—拒否, 確たる統制=確たる統制—緩い統制, 心理的統制=心理的統制—心理的自律

主要引用文献

- 小林 真 (2011). <https://doi.org/10.15099/00001051>
 外山 美樹 (2002). <http://hdl.handle.net/2241/9503>
 内海 緒香 (2012). <http://hdl.handle.net/10083/51601>